2008年（平成20年）1月19日　土曜日　北日本

丸栄製作所

金属プレス加工拡大

事業部再編　溶接と相乗効果

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所（射水市鷲塚・小杉、今牧繁社長）は、金属部品のプレス加工を拡大する。住宅設備部門のFRP（繊維強化プラスチック）事業部を二月からプレス成形事業部に再編。他社と差別化を図る同社のコア技術を溶接とプレスの二つと位置付け、互いの相乗効果で金属部品製造技術の高度化と受注増を狙う。

同社は、溶接技術で中型、大型建機のショベル部分（バケット）などを製造する建機事業部と、プレス技術でユニットバスや洗面台などを製造するFRP事業部の二事業部制をとってきた。

建機事業部は世界的な資源開発と新興国の社会基盤整備などで需要は拡大を続けている。一方、FRP事業部は住宅市場の低迷で売り上げは低下傾向にあり、先行きも少子高齢化などで大幅な回復が見込めないため、プレス成形事業部に変更することにした。

同社は五百―二千五百トンの油圧プレス機九台を所有。金属部品のプレス加工にも一部利用してきた。今後は住宅設備関連を減らし、建機関連を中心に金属部品の分野にシフトしていく。

本社工場と射水市寺塚原・新湊の工場に分散している油圧プレス機も、今後一カ所に集約し生産効率を高める。

金属部品成形への利用を広げる油圧プレス機（中央奥）

平成20年1月19日(土)　北日本新聞